

# 就業構造基本調査でみる鳥取県

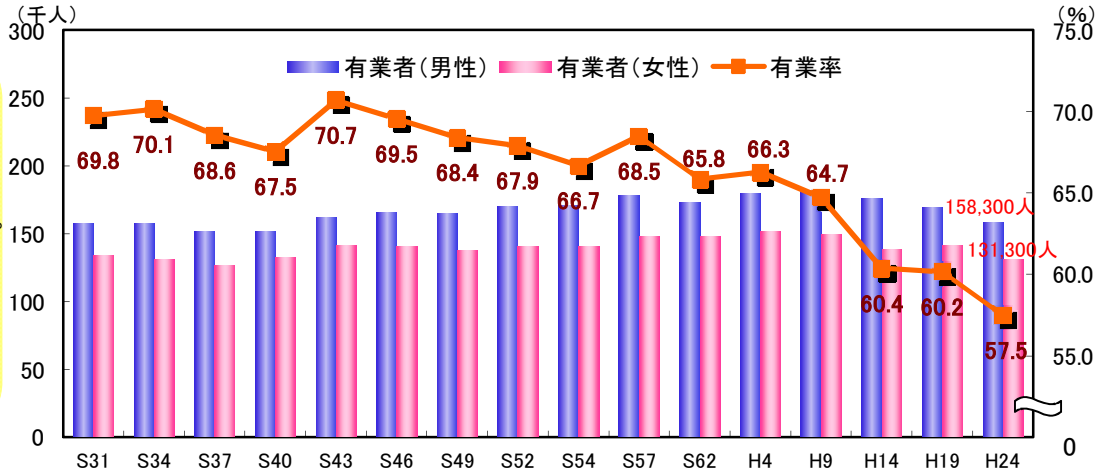
## ～15歳以上人口の就業状態～

就業構造基本調査は、国民の就業・不就業の実態を種々の観点から捉え、就業構造を詳細に明らかにするもので、全国の世帯から無作為に選定した約47万世帯、鳥取県では約7,890世帯に平成24年10月1日現在で実施されました。

### 男女別有業者数及び有業率の推移（昭和31～平成24年）

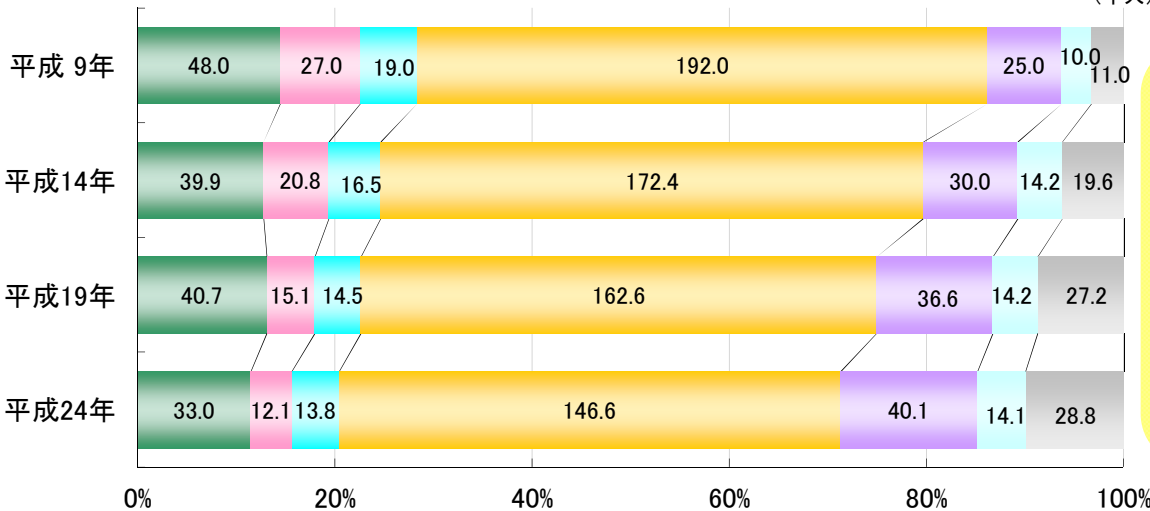
#### 有業率は過去最低

有業者について男女別にみると、男性が158,300人、女性が131,300人となっています。15歳人口に占める有業者の割合（有業率）は、全体が過去最低の57.5%で、5年前と比べ2.7ポイント低下しています。



### 従業上の地位、雇用形態別有業者数及び構成比（平成9～24年）

■ 自営業主 ■ 家族従業者 ■ 会社などの役員 ■ 正規の職員・従業員 ■ パート ■ アルバイト ■ その他（派遣社員、契約社員を含む）



#### 非正規就業者比率が増加傾向

有業者を従業上の地位別の構成で見ると、自営業主と家族従業者の割合が減少する一方で、雇用者（役員を除く）に占める非正規就業者（パート、アルバイト等）の割合が高まっています。

### 男女別、所得階級別有業者数（平成24年）

#### 年収500万円未満が全体の約8割

有業者（男女合計）について、所得（主な仕事からの年間収入）を階級別の割合で見ると「100～199万円」が24.8%で最も高く、次いで「200～299万円」が21.0%、「100万円未満」が16.4%となっており、500万円未満の割合が81.5%となっています。また、男女別にみると、男性は「200～299万円」が最も多く、女性は「100～199万円」が最も多くなっています。

